



## 国外における一般市民への医学情報提供の現状(文献的考察) —医学図書館による公立図書館および利用者への活動—(抄録)

若杉 亜矢

### I. 目的

国外、特にアメリカでは一般市民が健康情報を知りたいと思ったら、公共図書館へ行くのが常識である。本国では、病院や医科大学においても患者図書室の社会的認識がやっと高まりつつある。本研究は「国外における一般市民への医学情報提供の現状」を主題として、医学図書館による公共図書館や利用者への活動に重点をおいて文献的調査を行った。

### II. 方法

PubMed を用いて文献検索を行い、対象文献を選択した。

### III. 考察

米国医学図書館の取り組みや、図書館員から患者や職員への積極的な活動を垣間見ることができた。健康情報の需要や政府の援助、病院内の図書室の位置づけなどを各文献から拾い上げて検討を行った。

### IV. 結果

今回の研究を通して、日本はアメリカに比べ、健康情報に関する認識やサービスなどまだまだ追いついていないということを改めて感じた。アメリカでは当たり前に行われている健康情報の提供は、今後検討していくべき大きな課題であり、病院図書室としての対応を考慮すべきである。

本研究は近畿病院図書室協議会より助成金を受けて調査を行っている研究である。尚、その後の追跡調査を合わせ、後日改めて誌面で発表していく所存である。

### 〈共同研究者〉

神山貴子 (京都桂病院)

山室真知子 (京都南病院)

杉本節子 (相愛大学)